

# ReBOSSIS-J<sup>®</sup>

## CLINICAL CASE REPORT

日本私立学校振興・共済事業団  
東京臨海病院 整形外科部長  
中原 大志先生



### 略歴

1999年 3月 順天堂大学医学部医学科卒業  
1999年 4月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 整形外科 臨床研修医  
2001年 7月 三郷順心総合病院  
2004年 1月 多摩南部地域病院  
2005年 7月 北習志野花輪病院  
2006年 4月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 整形外科 助教  
2010年 2月 王子病院 整形外科部長  
2017年 1月 東京臨海病院 整形外科部長

### 専門医・認定資格

1999年 5月 医師国家試験合格  
2006年 3月 日本整形外科学会 整形外科専門医  
2007年 3月 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医  
2008年 7月 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医  
2009年 2月 医学博士取得  
2012年 4月 日本脊椎脊髄病学会認定指導医  
2014年12月 東京都難病指定医  
2019年10月 脊椎脊髄外科専門医  
2020年12月 Balloon Kyphoplasty Trainer

## 頸椎前方固定に綿形状人工骨ReBOSSIS-Jを使用した症例（80代）

頸椎前方椎体間固定において使用される椎体間ケージの充填材料としては、自家腸骨が用いられることが一般的であるが、腸骨の術後採骨部痛がしばしば問題となる。

当院では、ケージ内充填材料として綿状人工骨ReBOSSIS-Jを使用している。人工骨自体には骨形性能や骨誘導能がないため自家骨や骨髄液が併用されることが多いが、当院では先に述べた採骨痛を避けるため骨髄穿刺液をReBOSSIS-Jに混合してケージ充填材料としている。

この方法を導入以降は術後採骨部痛に悩まされる症例はない。人工骨には多種多様な材料、構造のものがあるが、骨髄液を併用した人工骨を移植骨として使用すると、自家骨に比べ早期の骨癒合では劣るという報告がある。しかし、当院では移植骨として骨髄穿刺液を混合したReBOSSIS-Jを使用して術後採骨部痛を伴わずに、自家骨と遜色ない骨癒合経過を得られた。



綿形状人工骨



販売名：レボシス-J  
医療機器承認番号：30300BZX00095000  
承認年月日：令和3年3月29日  
一般の名称：吸収性骨再生用材料

# 症 例 写 真

## 現病歴

83歳男性

33年前にC4/5前方固定を受けている。ふらつきにより歩行出来ないことを主訴に当院を受診した。上下肢筋力低下はないが両手指の巧緻機能障害を認めた。

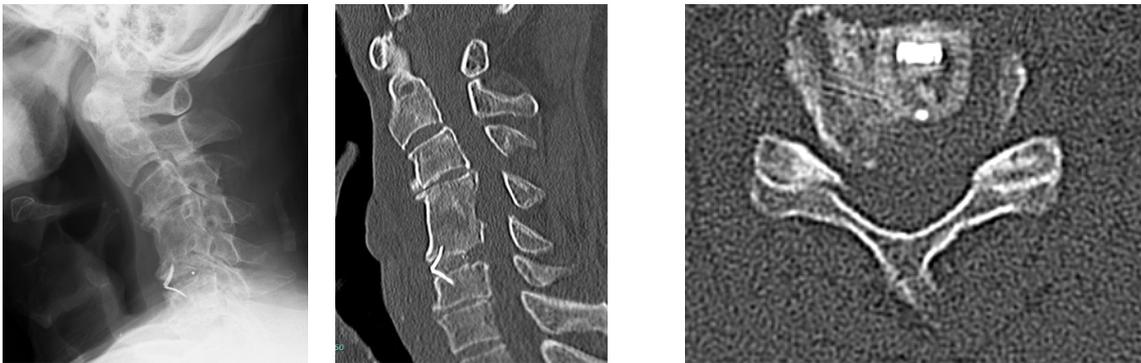
## 初診時所見

MRIでC5/6で脊髄の圧迫とT2強調像で髄内に淡い輝度変化が認められる。単純X線像ではC4/5固定隣接椎間で狭小化と後弯変形を呈していた。



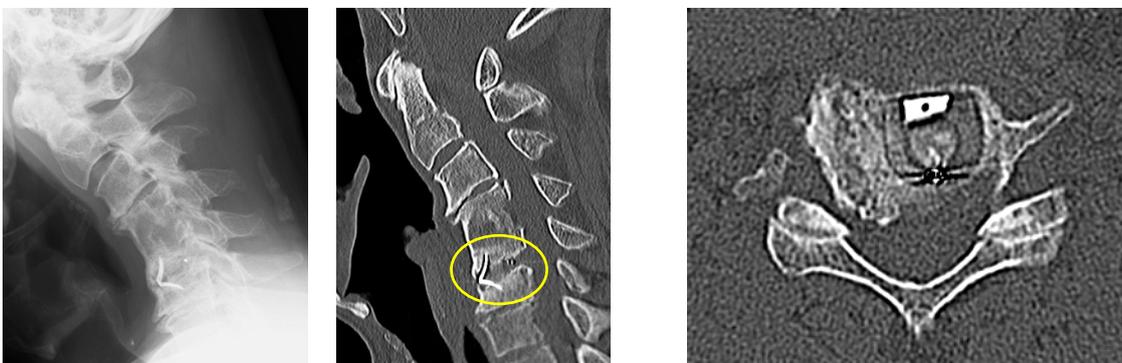
## 手術所見 (ケージ&骨盤穿刺)

C5/6前方椎体固定を行った。椎体間ケージにはReBOSSIS-J 0.2 gに腸骨より採取した自家骨髄液を混合したものを充填している。



## 術後経過 (6か月)

術後6ヶ月でケージ内に上下椎体に癒合した骨形成を認めた。



販売業者

製造販業者

ORTHOREBIRTH株式会社

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央15-3  
TEL (045) 532-3650 FAX (045) 532-3691

資材番号 L128-01

